

情緒不安定傾向を持った子どもの 保育集団の中における治療プロセス

浪速短期大学附属短期大学幼児部

・お栗美枝子 倉戸直実 古川鈴子

目的: 当幼稚園に在園した情緒不安定傾向を持っていたAくんの保育集団の中における行動特色と変容, それに対する教諭の教育計画を報告する。
方法: 被験者—1974年4月より5年間在園したAくん(1969年4月10日生れ) 家族構成は表1参照。
表1 家族構成(入園当初)

氏名	年齢	職業
父	37歳	会社員(企業営業)
母	37歳	主婦
兄	10歳	小学生
妹	7歳	小学生
本人	5歳	在園中
祖母	65歳	主婦

結果: 入園当初は、人間関係が成立しにくかったが年長児になると、遊びの中に参加出来るようになり泣いたり喧嘩が出来るようになった。

表2 行動特色と教育計画

時期	情緒行動	言語	基本的生活習慣	後期	情緒行動	言語	基本的生活習慣
前期	5 オ 兄	●部屋の角に行くことが多く、子どもが近づくと身体を一層小さくしてしまふ。 ●泣く、怒るの感情が見られず顔の表情は、意味のない笑みを浮かべている。 ●身体の一部を、よく動かしている。手や足で一定のリズムを取ったり、口をモグモグ動かしている。 ●初めての経験、特に運動面には、不安が大きく恐ろしくて教諭や机にしがみつく。階段の登り降りは、手をつないでも恐ろしくて出来ない。	●会話は出来ず、一方的であるが、自分だけに向けられた言葉には聞こうとする態度が見られる。しかし集団の中では、話を聞こうとせずひとり言をいったり、数字を口ばしする。言葉は、命令的(これか、どうする)でほとんど単語だけで話す。 ●当然年令的に理解出来るはずの言葉が理解出来ないで、教諭の言葉や他の子どもと通じ合えないことが多い。字の読み書き、数の理解度は年令以上のものがある。	●衣服の脱着、たとえば簡単なかぶるだけのスモックも手を貸さないと出来ない。しかし自分でしようとする態度は見られる。 ●食事の好き嫌いが激しく、嫌いなものが入っていると机の下に落ちたり、ナフキンにつつま。箸は、使うが口の中に流しこむので、こぼす量が多い。歯は、味噌歯でほとんどない。 ●鼻をかんだり、うがいをする事が出来ない。口に入れた水をすぐ飲んでしまう。鼻をふこうともしない。	●短時間でモイスにじっと座っていることが出来なく机の上に頭を乗せたり、床に座る。立っている時は、いつも膝を曲げている。 ●運動具や固定遊具には、近づこうとはせず大型積木も触れようとはしない。 ●急に手を叩いたり奇声を発する。(入園当初は、大きな声を出すことがほとんどなかった) ●遊びに加わろうとはしないが他の子どもが遊んでいるのを見て喜ぶ。他の子どもの行動に興味を示す。	●個人的に絵本を見ながら話をするとき時々反応が見られる。特に動物の名前に興味を持ち、質問にも答えることが出来る。 ●出席簿の名前の順番を暗記し、ひとり言のように口ずさむ。それを話しかけて中断させても、正確にその後を続けて言う。数字についても同じである。 ●歌が好きで音感もよく、歌詞はよく覚える。レコードを聞かせると身体を動かして楽しそうである。この時はよく集中できる。	●排泄の始末は、出来ないが嫌がらずに行く。 ●カバンをかけた時、帽子をかぶることが出来ないが、自分でしようとする態度が見られる。 ●食事(お弁当)にかかる時間は、他の子の倍で1時間くらいである。じっと座って食べることが出来なく、箸を床に落とすことが多い。 ●スモックは、後ろ前が多いが自分で着るようになる。脱ぐときは、教諭の手を借りようとする。 ●ハサミをうまく持てない。
教育計画	指導の方法も混沌としていた。とにかく観察することを第1の目的とし、行動特色と変容を記録した。少しでも不安を取り除くために、Aくんに向って、名前を呼んだり言葉を常にかけた。話しかける時は、かならず膝の上に乘坐せ、出来るだけ表情豊かに話そうにした。Aくんの反応は、ほとんどなかったが絵本などで興味の方向を知ろうとした。お弁当も横の席で食べ、なるべくいっしょの時間を持った。			友だちの中に少しづつ入れていくようにした。Aくんと個人的な交わりの中に他の子を誘いその輪を広げていった。Aくんの好きな動物を保育の中で取り上げたり、楽器に興味を持っていたように、自由に使えるように保育室に用意した。行動範囲を広げていくように、リズム室や外にも連れ出し他の子どもが遊んでいるのを見せるようにした。生活習慣は、時間がかかってもほめながら自主的にさせるようにした。			
中期	6 オ 兄	●ブロックで遊ぶようになり、自分で作ったものを、他の子が触ると、怒って手を上げる。やはり前と同じ意味のない笑を浮かべていることが多いが、嫌だという意志表示ができる。 ●自分の思うようにならないと泣く。しかし声を出して泣くことがない。 ●花壇の花に、水をやるのが日課になり、止めないといつまでも続ける。水をやる場所は、決まっている。 ●大型積木で作った滑り台(高さ40cm)に喜んで乗るようになる。	●集団の中でも、自分が興味を持ったことには、参加出来るようになり、ひとり言が少なくなった。絵本もひろい読みが出来る。 ●単語だけで相手に自分の意志を伝えていたのが文章化して話そう出来るようになる。 ●遊びの中で友達との会話が出来ようになり、命令的な言葉が少なくなった。 ●時計に興味を持ち、1日の流れを時間を元にして話す。行動もいつもと同じ時間にしないと、同じことを何度も繰り返して言う。	●上着のボタンをかけられるようになり、洋服をひとり着られるようになる。裏返しになった洋服は直すことが出来ない。 ●排泄の始末が出来るようになる。 ●カバンをかけた時、帽子をかぶるようになったが、帽子の後ろ前が解らない。 ●ゴムのついた帽子は、あごにゴムをかけられない。 ●自分の持ちものを、決められた場所に置くことが出来る。 ●箸の使い方は、入園当初とほとんど変わらない。	●友だちと遊ぶことが多くなり顔つきも、しっかりしてくる。なんでも友達を模倣をするようになる。 ●教諭の手伝い、当番の仕事も積極的に出来る。特にプレーヤーは、誰にも触らせずプレーコーダーの操作を喜ぶです。 ●動きをとまらぬ行動が多くなり、怪獣ごっこやリレーをする。フォークダンスや遊戯にも積極的に参加するようになったが動作が思いうるようには出来ない。 ●喧嘩が出来るようになり表情も豊かになった。	●集中力が出来、話を聞こうとする態度が見られるようになり、ひとりごとがほとんどなくなる。しかし遊びのルールは、まだ理解出来ないことが多い。 ●興味を持ったことには、自分から質問して行くようになり、言葉数が多くなった。 ●言葉で友達と意志がスムーズに伝わることは、まだ無理だが遊びの中に積極的に入るようになった。 ●しりとりあそびが出来るようになる。	●うがい出来るようになり歯みがきも嫌がらずに出来るようになる。 ●食事の時間も40分くらいになり、こぼす量も少なくなる。好き嫌いは、やはり激しく野菜は、ほとんど食べない。 ●日常的なことは、だいたい自分で出来るようになり手伝われるのを嫌がるようになる。手先の細かい作業は好まずなにごとも難である。 ●鼻をかむことは出来ないが鼻が出たらず紙でふこうとする。 ●ハサミを出来るようになり製作にも意欲が持てる。
教育計画	当番の仕事や手伝いを積極的にさせ、皆んなにAくんの存在を認めさせ自信を持たせようとした。Aくんが興味を持ち、よく知っていることを質問し、みんなの前で答える機会を多く持った。友だちと一緒に生きものの世話をさせたり、グループの中で役割を持たせて行動させた。固定遊具には、不安が大きく傍にも近よろうとしないので積木で滑り台を作って遊んだり身体を丸めた上に乗せて飛び箱のかわりにさせた。			責任のある仕事を各自に持たせた。Aくんにはプレーヤーやテープレコーダーの操作を任せた。Aくんに絵本を読んでもらうのを日課に入れ、出来るだけ楽しそうな表情をして聞くようにした。運動面には、どうしても消極的なのでリレーやボールあそびなど友だちとのつながりを持った遊びを多く取り入れながら指導に当たった。友達の模倣が出来るようになったので席を時々変えて友達から受ける影響が多くなるようにした。			

討論: Aくんにとって幼稚園生活は教育効果があったと推測される。クラスの子達にとっては、Aくんを最初は好奇の目で見ていたが、彼の特性を感じ、行動を助けるようになり、見守り助ける態度が出来た。教諭にとっても、Aくんを通してひとりひとりの子どもが見えるようになった。またAくんのような特性をもった子どもを保育する場合は、充分な教育計画を持たなければならぬと痛感した。

表3 知能テストの経過(田中ビネ一式)

回数	月日	得点	所見
1	1974年10月1日	検査不能	質問に対して理解性が低い。答えをしない。
2	1975年6月24日	60点	自分の気に入った質問は答える。
3	1975年12月15日	70点	テストの言う事を理解しようと努力する。
4	1976年2月15日	80点	集中力ができ、テストの内容が分かる。

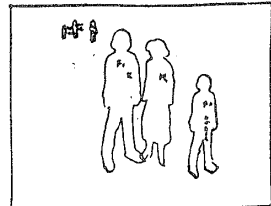


図1 家族画認知テスト